

理由說明ハ本条ハ法朗西民法第百五十九條第百六十條ノ模倣
シテト説明ス而シテ新加ノ第三項ハ亦同民法ニ依拠セリト
第一解審理手續ノ延期 此ノ規定ノ實用ハ各審級ニ於ケル裁判官
ノ見込ニ放任セラルルモノニシテ而カモ一時廢食ヲ分別スルノ訴
訟ノ場合ニモ之レヲ實用シ得ヘシ但本法第百二十九條ニ依リ抗
告ヲ許サル上ノ第一解並ニ本法第百二十九條第百四條第百
猶ホ彼ノ原被告兩造審理手續ノ延期ニ付テ相承諾シ得ルノ法則本
法第百二十八條第百八十一條又本件原告被告ノ一方ハ審理ノ延期
ヲ申立ルコトヲ得且此ノ申立ノ却下言渡ニ付テハ即時抗告ヲ為
シ得ルナリ(本法第百二十九條第百四條第百八十一條)

第三解一時廢食ノ分別 理由說明：曰廢食分別ノ許否ニ付テハ根
元法ヲハ婚姻法ニ依リ判斷ヲ為サハルヘカラス而シテ實ニ之レヲ
許スハキ件此ノ一時ノ分別ハ本法第百八十四條ニ依リ及別ノ
命令ヲ以テ之レヲ命令シ得

審理手續ノ延期ハ即本法第百二十六條第百二十七條ニ於テ規
定スル結果ヲ呈スヘシ(本法第百八十一條乃至第百八十四條第
二解第百八十一條)但此ノ廢食分別ヲ為スノ効力ヲ生セス蓋本条ハ法
朗西民法第百二十九條ト全ノ別異ノ行文ヲ用ラレタレハナリ但
裁判官ハ本法第百八十四條ニ依リ審理延期ノ決定^{ト共ニ}一時ノ
廢食分別ヲ言渡シ得ルノミナラス配偶者間ノ和解ヲ奨励スル為
メトシテモ此ノ申立ヲ許容スルヲ要スヘシ
本法第百八十四條ニ於テ定ムル一時廢食ノ民法上ノ成績ハ全ク
民法ノ規則ニ准拠スヘクシテ而シテ例之ハ法朗西民法第百三十一
條ニ於ケル財産分派ノ如キ効力ヲ呈スルナリ

第四條 不善良ノ妻童亦法第五而三十條第五而三十九條及北部聯邦 理由說明ニ說明シテ曰抑婚姻事件ニ因

シテ元來婚姻法ノ彼此相違異ニ所定ニ非常ナルヲ以テ本法案ニ

於テハ即他ノ法制ト異ナリテ必スヤ特別規定ヲ採用セザントニ注

意ヲ努メサレテ得ス而シテ後令不善良ノ妻童ノ根元法ニ於テ被

告ノ住所明瞭ニ且送達ヲ為シ得ル場合ニ方テ成立スルニ付シテ

凡又ハ偏ニ其住所ノ不明瞭ニ且送達ヲ為シ得ル場合ニ付

立タルトニ因ルニモセヨ迄ニ自正當ニ実利ヲ為レ目的ヲ達スル

ヲ止期セザルニ付テサリシナリ又不善良ノ妻童ナル要件カ存在

ルヤ否ノ審査ノ事ハ本案ノ原則ニ於テハ敢テ審理期日以前ニ於

テモ之ヲ要セスレテ而カシ事件審理期日ノ開リノ后ニ自ラ之レ

ヲ為スノ趣ヲトス又被告人缺席ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本法第五

而七七十七條第五而七十八條ニ依リ任意ノ見込ヲ以テ原告人ヨリ呈

出シタル材料ノ理由ト被告人缺席トヲ併セテ審定シ以テ果シテ不

六十九年三月一日ノ法律第三十二条矢意及ヒ各聯邦ノ法制ノ不善
意委重ト相連係スル所ノ配偶者^結ノ一方ノ申立ニ因テ發スル裁判所
ノ後級命令系統命令及ヒ悔改命令^ニ因テ發スル數規定ヲ保障スルノ取
除規則ヲ制定スルノ必要ヲ感シタリト云々

第五百八十一条 〔裁判所ノ職權上ノ行為ニ因スル所〕

婚姻ヲ維持スルノ目的ノ為メ裁判所ハ原告被告兩造ヨリ申立ラサレ
シ事實ヲ詳而シ且職權ヲ以テ之ヲ採^ル用ヲ命スルコトヲ得原告被告
ハ裁判以前之ヲ審問ス可キモノトス

第五百八十二条 〔判決ノ送達ニ付テノ所〕

婚姻ノ齟齬無効又ハ取消ヲ言渡ス判決ハ職權ヲ以テ之ヲ原告及ヒ被
告ニ送達ス可シ

第五百八十三条 〔第二百五十二条ヲ取消クノ所〕

第二百五十二条ノ規則ハ控訴裁判ニハ之ヲ適用ス^セトス

第五百八十四条 〔仮処分ニ付テノ所〕

仮処分ノ場合殊ニ配偶者ノ一方一時ノ齟齬ノ許可ヲ申立テ及ヒ養料
ノ支拂ヲ申立ル場合ニ於テハ第八百九十五条乃至第八百二十二条ノ規
則ヲ適用ス

〔第一解制定ノ沿革及ヒ理由ノ説明〕 本文第五百八十一条ハ^{（附設）}第二條

ハ云々於テ初テ採用セラレタリトシ蓋家初全ク刪除シタリ檢察官ノ
立合ヲ再ヒ採用スルコトニ決定シタリニ因リ之レニ對抗セシムル為

裁裁判所ノ職権行為ヲ遂出セシトノ目的ニ出テシテ、爾來本条ニ
 付テハ異論ナク存在セシメラレタリ、本法第五百六十九条並ニ其注
 解ニ必竟本条ノ趣意ノ如キハ在モ好マサシキ、然レモ其後歸スル
 カ、感十キニ非ラズ、但本条ハ之レヲ実行スルヲ裁判官ノ事務ト
 ト為サズ、只其職権ヲ擴張シタルトシ
 又本文第五百八十二条モ亦同法第二會ニ付テ新ニ追加セラレ
 所ニシテ即判決ノ送達ヲ為サ、ルニ因リ、其確定力ヲ得んニ至ラ
 せん支障ヲ防止セシカガ、ナシ、本条ハ例太急而シテ、本条ハ敢テ法
 律西民法第五百六十四条乃至第五百六十六条ノ規則ヲ假スル趣意
 ニ非ラサシ、一ニ決定セラレキ蓋ハ民法ノ趣意ニ出ル規定ハ帝國結
 婚法第五百五十五条第二項ニ付テモ亦保持セラレ、ナリ
 又本文第五百八十三条第五百八十四条ハ異論ナク通過シ、而シ
 テ第五百八十四条ハ各中條ニ付テ差異アリ、又此ノ条ニ付テ、特
 別ノ理由説明ハ之レアラズ、第五百八十三条ニ付テ、説明ハ本法第
 五及二条第五百三條ノ第一解ニ併シ論セラレタリ
 (第一解裁裁判所ノ職権上行為) 一ノ第一解(第一解) 本文第五百八十一条
 第五百八十二条ハ控訴審ニ付テモ適用セラレ、但シ本法第五百七十
 四条乃至第五百七十六条第三解(第一解) 又第五百八十二条ハ上告審ニ
 付テマテモ適用セラレ、ナリ
 第五百八十二条ニ付テ、職権送達ハ即本法第五百八十八条ノ取消
 法ナリ、而シテ、仮令判決ノ宣告ヲ公行シタリ、但本法第五百八十一条
 乃至第五百八十三条第四解(第一解) 必ス送達ヲ為ス、然レ、厚被告ノ申立
 ニ因リ、審理ノ延期ヲ為シタル後ニ在リハ、之レヲ要セム、(本法第五百
 二十六条(第一解) 及ニ、
 第五解) 及ニ、
 第二及二条第五百二十八条第二項(第一解) 必竟本法第五百八

十條ノ場合ニハ判決ヲ不渡スナリ及ヒ延期ノ限ノ経過後ニ在リ
モ亦辱被害ノ一方ヨリ新ニ呼出ヲ為レタル後ニ於テ不渡シ得ルヲ
以テノ故ナリ〔本法第二而二十七条参照〕

〔第三解後処分〕 及処分ハ必ス申立ヲ俟テ之レヲ為スヘキナリ又一
時高別ニ関シテハ本法第五而八十条第一解ヲ参照スヘシ蓋本文第
五而八十四条ハ法例西民法第二而六十八条ノ意ヲ包有ス之レニ
及レ法例西民法第二而六十^九条ハ本法実地法第十四条ニ依リ本根
ニ於リハ之レヲ採用セム

養料事務ニ関シテハ民法ノ定ムル所ニ從フ可シ

第五而八十五条 〔婚姻取消訴訟ニ付テノ条〕

取消訴訟ニ付テハ以下数条ニ掲載スル特別ノ規則ヲ適用ス

第五而八十六条 〔起訴権ニ付テノ条〕

其訴訟ハ檢察官モ亦之ヲ提起スルコトヲ得配偶者ノ一方又ハ第三者
カ^モ其訴訟ヲ提起スル權利ノ程度ニ付テハ民法ノ規則ニ依テ定ムルモ
ノトス

檢察官又ハ第三者ノ提起シタル訴訟ハ配偶者双方ニ對シテ之ヲ為レ
配偶者ノ一方ノ提起シタル訴訟ハ他ノ一方ニ對シテ之ヲ為スヘキモ
ノトス

〔第一解制定ノ沿革及ヒ理由ノ説明〕 国務院委員会ニ於テ本文第五
而八十五条ニ付テハ別ニ異議ナリ採用シタル氏第五而八十六条ニ
付テハ檢察官ノ立会ニ関シ永ク討論ヲ為レタル後漸ク通過セラレ
タリ国務院委員ハ本文第五而八十六条ニ付テ配偶者一方ハ取消訴

民法ノ為メ民法ノ規則ヲ应用セシメント主権レ内閣代理官ハ本条ノ精神ハ此訴ノ提起権ヲ擴張スルノ主事ニ非ラザントシテ一タリキ
○各中格ハ本格ニ同レ

理由説明ハ本文第五而八十六及七十九乃至第九十一條乃至第九十一條ニ定^付ル^是ル^レ婚姻^ニ取消^ノ訴^ハ檢察官^ノ対^手人^トシテ干^渉スル^ノ止ム^ヲ得^ルサ^ル結果^ナリト^ス本^法第五^而六十九^{乃至}第九十一^條並^ニ其^注

解^答意

又理由説明ニ曰^ク檢察官ハ本法第七十四條ノ規定アルニモ拘ハラズ
裁判^所附^屬ノ代^言人^ヲレ^テ代^理セ^ルハ^シテ要^セサ^ルハ^シテ^ハ其^後ノ
スレ^テ明^亮ナ^リ故^ニ之^レニ付^キ取^ラセ^ル文^ヲ設^クシ^テ其^感セ
スト云々

此ノ説明ハ内閣院ニ於テ多數ノ賛成ヲ得ヨリ

第二解^答意

取消^ノ訴^ハ民法ノ意^ニ付^テハ本文第五^而九十二^條及^テ其^注
解釋^ヲ參^照ス^レ而^シテ此^ノ訴^ハ民法ニハ本法第五^而八十六^條乃至^{第九十一}
五^而九十一^條ニ取消^ノ規定^ヲ掲^載セ^ル限^リ婚姻^ノ訴^ハ民法ニ付^テ一^般
ノ規則^即本法第五^而六十八^條第五^而六十九^條第五^而七十四^條乃至^{第九十一}
第五^而七十九^條第五^而八十一^條乃至^{第九十一}第五^而八十四^條ヲ適用^スヘ^キ
ナリ

本文第五^而八十六^條ハ九^ノ民法ニ於^テ許^スヘ^キ婚姻^ノ取消^ノ訴^ハ場
合^ノ為^メ檢察官^ノ職^權上^ノ公^認ニ付^キ保^障ヲ為^シテ^ハ所^ナリ蓋^シ此^ノ
ノ規則^カ行^ハレ^テ初^ニ絶^對的^ニ婚姻^ノ取消^ノ結果^ヲ獲^ルニ至^ルハ^ハ其^後
邦^法制^中審^判カ^ラサ^ヘシ^テ實^ニ是^レマ^デ対^手人^ノ訴^ハ民法^上申^立テ
為^シ得^ルヘ^キ故^ニ其^後ノ^注釋^ニ之^レア^リシ^レハ^ナリ

取消^ノ理由^ニ付^テハ帝國^ノ結^婚條例^{第三十六}條乃至^{第三十八}條ヲ參^照

措カサレハカラザルナリノ取消訴訟ヲ禁ムルハ配偶者双方生存ス

ル向ハ世訴訟^{提起及ビ原}被告トシテ地位アリ更ニ重大ナル^{能カクモ}

事トシテ一キヲ保障スルヲ要ス是レ僅ニ規定ヲ明定シテ以テ右

ノ目的ヲ達シ得ル所ニシテ即配偶者生存中ハ婚姻ノ取消ニ付テハ

審理ヲ為サス又裁判ヲ為サ、ルヲ要スル規則^{ヲ設ク}申ル由縁

ナリ云々

〔第二解反逆〕 本文第五百八十七条ニ於テハ取消反逆ハ取消訴訟ニ

対シテノミ許スト定メテ太ダ了解シ易カラサルニ似テ何レトナ

レハ両ツナカラ婚姻ノ破壊^ハ則チ同ノ目的ヲモリテハナリ

然レ氏情考テレハ元來原被告両造ノ認識ノミナラズ以テ婚姻ノ

取消ヲ決定スルニ定ラス〔本法第五百七十七条第一項参照〕被告

人モ後々原告人ニ同シク婚姻ノ取消ヲ希望シ原告人カ提出セシ理

由ニ優ル所ノ理由ヲ申立ルテ之レナレ氏新定レ得ヘカラス又場合

ニ依リ被告人ニシテ原告人ノ取消理由例之ハ重婚ノ処为アリトス

ルノ理由ニ対シテハ抗弁^ハ反^ハ近親ナリ以テ婚姻ヲ取消サレト

主張スルノ利便モ之レアラシ

〔第三解取消訴訟ノ特立〕 本文第五百八十八条ニ於テハ配偶者双方

ノ生存ヲ以テ一ノ要件ト为スナリノ配偶者ノ一方ニ作ラス且理由

説明中ニモ甚^ニ複^ニ數^ニ性^ニノ文字ヲ用フルナリ又本文第五百八十七条

ニ依レハ即取消理由ノ申立ヲ抗弁ノ方法ヲ以テ提出スルテ禁ス

又本法第五百七十五条第二項ニ於テハ取消理由ヲ反訴トシテ他

ノ婚姻訴訟ニ対シ提起スルヲ禁ス是ニ於テ参見者ハ配偶者双方ノ

生存中ニ在リテ世取消理由ヲ相手人ノ取消訴訟ニ対シ反訴ノ方法

ヲ以テ申立テサレ可ラス他ノ婚姻事件ニ対シテ特立ノ取消訴訟ヲ

提起スルヲ必要トス然レテ而レテ此ノ如ク紛雜スル場合ヲ能ク解理
シテ序次井然ヲラシムルニ足ルハ即本法第百三十九条ノ規則ナリ
トス本法第百七十四条乃至第百七十六条第百四解知意

第百八十九条 「検査官訴訟上行為ノ權利ニ付テリ条」
検査官ハ訴訟ヲ提起スル時非ラサシム時ト雖モ訴訟行為ヲ担当シ殊
ニ独立シテ申立ヲ為レ及ヒ上訴ヲ起スコトヲ得

第百九十条 「上訴ニ付テリ条」

検査官又ハ私人タル原告若クハ被告カ上訴ヲ呈出スル時検査官ノ上
訴ノ為ス場合ニ於テハ其私人タル原告被告兩造ノ上訴審理手続ニ於
テノ相手人ト看做シ私人タル原告若クハ被告比訴ヲ為ス場合ニ於テ
ハ他^他方^方又検査官一方ノ原告若クハ被告ナリ時ハ其検査官ノ上
訴審理手続ノ相手人ト看做ス可シ

第百九十一条 「費用ニ関スル条」

原告又ハ被告トシテ臨ミタル検査官敗訴シタル場合ニ於テハ国库カ
第百九十二条第百九十五条ノ規則ニ從ヒ勝訴者タル相手人ニ生シタル費用
ヲ負擔ス可キコトヲ定メ渡サシムル

「第一解制定ノ沿革及ヒ理由ノ説明」 国議院委員^會於テ異議ナリ通
過シタル又本文第百八十九条第百九十条ハ各中核ニ因レ北却
獨乙聯邦中核第百七十九条^{第百九十条}ニ於テハ「検査官ハ訴訟ヲ提起シタル時
且世申立ノ採用セラレタル時ト雖モ亦上訴呈出シ得トノ明文アル
ナリ」

ホ文第五百八十九条第五百九十条ニ付テノ特別ノ理由説明ハ之レ
テラズ（本法第五百八十五条第五百八十六条第一解条危独ノ第五百
九十一条ニ付テハ旧標ニハ之レテ今ク新クハ追加セラレ核
察官原告ノ地位ヲ侵占シ得ルニ至ルハ規則ナシトテ述フ
「第一解核察官ノ訴訟上ノ行為ノ權」本文第五百八十九条ノ意ハ核
察官未ダ原告ノ地位ヲ侵占セザル以前ニ其ノ行為ヲ權アリトスル
ニ非ラス但核察官ハ既ニ兩造向權利拘束ヲ為シテ其ノ訴訟ニ付ラセ
自ラ進テ侵占シ得ルナリ

例之ハ原告被告兩造カ「明許又ハ黙諾」ノ手續ノ延期ヲ相認諾シテ
ル（本法第二百二十八条）核察官ハ本法第二百二十七条ニ依拠
シ審理ノ再開ヲ求メ得ヘシ但此ノ場合ニハ核察官ハ自ラ原告ノ
地位ニ立ツテ中立ヲサヘハカラス然ラサレハ私人タル原告
告ヲ要迫シテ其ノ訴訟ヲ為サセザルノ權利ヲ有セザルナリ

「第三解 核察官原告ノ地位ニ立ツ片ハ則原告タル被告タルノ一
切ノ權利義務ヲ自擔ス但代言人ヲ用フルトニ限リ」（本法
第五百八十五条第五百八十六条第一解条危而シテ本文第五百八十
九条ニ於テ核察官ニ付共シラシテ）上訴呈出ノ權利ニ付テハ即上ノ解
一解ニ援テシタシ北却獨乙聯邦中格第七十九条第二項ノ趣意ニ
照視シテ以テ核察官ハ法律ノ當直者トシテ只公然ノ利害ヲ代表
スルモノト理會スヘキナリ

審理ノ再開ハ上訴ニハアラス（本法第五百四十一条第一解条危而シ
核察官ハ本法第五百八十六条ニ依リ起訴權ヲ有スルヲ以テ亦之レヲ
申立テ得ルナリ）

「第四解費用」本文第五百九十一条ハ核察官ノ原告タル地位ニ付テ上

ノ第二解第三解未定也及改訴ノ場合ニ付キ規定セラレタリ所ニ
シテ本法第六百十四条第一項ハ之ニ異ナシ而シテ尚ホ本法第六
十七条乃至第六百条ニ依ルハトテ示レタリ

第五百九十二条ハ各婚姻訴訟ノ妻妾ヲ定ムルノ条

此章ニ於テ謂ヘル帝婚訴訟トハ婚姻ノ鍵繫ヲ解除スル訴訟又ハ一時
復食ヲ分別スル訴訟ヲ謂ヒ無効訴訟トハ職推ヲ以テ申立ルコトヲ得
サレ^{本レ}理由ニ依リ婚姻ニ對シ不服ヲ申立ル訴訟ヲ謂ヒ取消訴訟トハ職
推ヲ以テモ亦申立ルコトヲ得ル理由ニ依リ婚姻ニ對シ不服ヲ申立ル
訴訟ヲ謂フ

〔制定ノ沿革理由ノ説明及ヒ解説〕 各草案主クハ於テハ皆同シ而シ
テ国議院委員ハ帝國結婚條例第七十七条ニ基リテ終生同寢食ノ分

別訴訟ヲ本条ヨリ削除シ^キ〔本法第五百六十八条第一解第四解及
逸一時の復食ノ分別訴訟ニ付テハ本法第五百八十条第三解ヲ參照
ス可シ

理由説明ニ同カトリク字派及ヒプロテスタント字派ノ婚姻法ニ依
レハ即婚姻取消ノ訴訟ヲ以テ公性ノ破婚理由ニ依ル離別及ヒ私性
ノ破婚理由ニ依ルニ帝別ニ付キ審理裁判セラルハナリ又法朗西法
制法朗西民法第六百八十条乃至第六百二条參照ニ於テハ^コマニシトア
シヌルリテツウマ^リア^レジ^ル婚姻取消及ヒバ^レン^テ國法制ハ^バレ^ン國訴訟
法第六百五十一条參照婚姻無効ノ訴ニ付テモ亦然リ之レニ及シテ^ハ漏生
内國民法及ヒ^ハツク^セシ^テ國民法ニテハ取消訴訟ト無効訴訟トノ別ヲ
立ツルナリ乃チ漏生法制ニ於テハ公性ノ破婚理由ニ依^ルルモノヲ
取消ト爲シセ私性ニ因ルモノヲ無効ト爲ス又^ハツク^セレ^ル法制ニテハ

取消ス一キ婚姻ト及ヒ^政取消^撃ヲ俟テ破ル一キ婚姻トノ別ヲ為ス^乃其固
有的ノ破婚理由アルモノ^リヲ取消ス一キモノト称シ其比較的破婚理
由ニ反シテ^レ結婚シヨムモノ^リヲ攻撃ヲ俟テ破ル一キ婚姻ト名ケル^リ
其言詞ハ^必自其資産ニ於テ相同シキノ先蹤アルヲ以テ法典ニ付
テノ經濟上普通ノ文字ヲ採用スルノ得兼タルヤ固ト^リ言フ俟
ス而シテ字漏生法制ノ施行セラント^地地方區域ノ廣大ナルニ付テモ
或刑法第百七十一条又帝國結婚條例第三十四条第五十五条モ^然レ
ノ先例ニ^據テ字漏生内通法ニ於ケン文字ヲ採用シ^之レニ倣ヒテ婚
姻取消訴訟及ヒ婚姻無効訴訟ノ別ヲ立ルヲ良策トハ決定シヨ^リ○
^本文ニ^明掲^スル^ルニ^據テ^ハ西^法制^法制^法制
婚姻取消訴訟ノ意アル已ニ^本法^第百^九十^二條^ニ據^テハ^西法^制法^制法^制
西民法第百九十一条第百八十七条第百九十条第百九十一条及ヒ^ハガ^ン國^法
制ニ於ケン秘密婚姻ノ申告ヲモ包含スル^トハ^ハガ^ン國^法制^ハ
帝國結婚條例第三十九条ヲ以テ廢止セシメラレヨ^リ
此ノ如ク二種妻ヲ分別シマシモ尚ホ嚴格ニ論スレハ則法律上成立
サハ婚姻ノ場合ニ付テハ^此ノ區別ヲ恪遵セサレカ^ハ此^ノ例^之ハ獨^乙
國中帝國結婚條例ノ施行セラルル^ノ地方ニ於テ^ハ單^ニ僱^信ニ類^シテ結
ハレタル婚姻ハ^本法^第百^九十^三條^ニ據^テハ^婚姻^ト者^認山^カル^ラス^然ル^ニ
其婚姻破壊ノ為メ訴訟ヲ要スル^ニ方^テハ^必ハ^取消^訴訟^トシ^テハ^無
効訴訟トシテ審判セラント^リ

第二章 後見事件ニ付テノ審理手續

第百九十三条 (精神病ニ因リ裁判上後見ヲ為スノ条)

一、區裁判所ノ管轄ニ因ルニ限リ精神病人ノ廢自癒等ノ事トモ
人ノ精神病人ノ廢自癒等ノ事トモ
サレ得ルモノトス
F小判サレ得ルモノトス

決定ハ申立ア^時ニ限リ之ヲ文渡スモノトス

第五百九十四条 (裁判管轄ニ関スルノ条)

被後見者ノ普通裁判管轄ヲ有スル區裁判所ハ^特該事件ニ付テノ專屬管
轄権ヲ有ル

外國ニノミ住所ヲ有スル獨乙人ニ付テハ獨乙國內最終ノ住所ヲ有
セシ地ノ區裁判所ニ其申立ヲ為スコトヲ得

第一條後見事件手續ニ付スル例意 理由説明ニ曰根元法上ノ要件

即^{精神病者}廢自癒^ノ浪費者ハ如何ナシ法律上ノ制裁ヲ付スルヤ又其制裁命

全部若クハ部分ノ無能力又ハ後見管理ノ意ニ付テハ民法ノ規定ニ

ル所ニ依ルヘシ而シテ亦人ヲ精神病者又ハ浪費者トシテ其民法上

獨立ヲ褫奪スルニ付テハ必ス其屆候正確ナラサレハ一カラズ又見之

レテ正確ナリト定ムル方法ニ至リテ各邦法制上大ニ差異ス云々

從來世ニ行ハルニ二箇ノ方法(裁判所ノ對審手續^{又ハ}高等後見廳ノ

公衆ノ申立ニ付テハ各中^即第一ノ手續ヲ以テ殊更ニ權利保障ヲ

得ルニ適者^トモトト新定セリ我國務院委員^ト亦古ノ新定ニ同意

ヲ表スルニ拘ハラズ必スレテ廢自癒^ト民事訴訟ノ程式ニ依ルテ要

スヘカラサルノミナラズ後見ノ必要ニ付テハ敢テ爭訟ヲ為スニ至

ラサルモノ類ニテハ^カ故ニ場合ニ依リテ反テ廢自癒ノ手續ハ有テ

ラシカ^カノ考念ヲ抱ケル^ト是ニ於テ裁判所^ノ管轄權内ニ之レノ属セリ

ル原案^トハ^カ管轄^レ其地方裁判所ニ於テ初審ヲ為ス^{コト}區裁判所

カ^レ且^カ申立^ル後^カ審理スヘク^カ其^レ申立^ルモ^カ其^レ審理^ハ推

主事に依んへしト翻訴ヲ發シタリ然ルニ此ノ審理主事ハ排斥セラレ之レニ代フンニ即時抗告ノ許可ヲ以テシテ(本法第六百四十二条)

區裁判所又ハ抗告裁判所ハ後見ヲ宣渡シタル場合ニ於テ之レニ對スル不服訴行ハ地方裁判所ニ提出スルコトヲ得地方裁判所ハ即時審裁判ヲ為スモノトス(本法第六百五条以下各条)

現ニ付セラレタル後見ノ除去ニ付テハ何時又區裁判所ニ申立ルコトヲ得一レ蓋後見除去ニ付テハ即時抗告ノ限り不服ヲ申立テ得ルモノニシテ而シテ此ノ申立ヲ却下スルニ當リ對シテハ地方裁判所ニ出訴ス一ヤナリ此訴所ノ審理付テハ前項ノ主段ニ從フ

浪費者ノ理由ニ因レン後見ニ付テ主トシテ異ナルハ即公使ノ手添ニ於テ檢察官ノ立會ヲ要セザル所是レ(本法第六百二十一条各条)

急

或ル邦国ニ在テハ精神^薄弱及ヒ浪費者ノ為メ全ク後見人ヲ付セス又ハ^{精神}後見人ヲ付テシテ而シテ^{法律}保護人ヲ置テ法律ヲ設定ス乃此ノ保護人ノ同意ナク或ハ權利上ノ行為ヲ果行シ得リ(本法第四百九条第五項十三条)但シ^内國^内法^内庭^内加^内第五百十三条甲各条^内如キ准後見ノ規定ハ本法實施法第十條ノ以テ本法第五百九十三条以下ニ含蓋セシメタリ

取レテ實施法第十條及ヒ本法第五百九十三条第六百二十一条ニ準ケル所ノ外ノ理由ニ因レン自立自治ノ人ニ後見人ヲ付レ又ハ協助人ヲ置テテ並ニ未下年者ノ後見ニ付テハ更ニ干係ヲ及ホサス(理由說明ニ云フイムベキテトトハ即自應ホ支第五百九十三条)又ハ精神薄弱者ノ如キハ(二十)

終ニ情ヲ理由説明ニ述ヘテ日本文章五九三九三九条ハ精神病者ヲ其
家親又ハ警察官ニ於テ治療ノ為メ又ハ一時ノ警戒ノ為メ及ニ麻癩
院ニ入院セシムルヲ得ヘテ不ノ向題ニ付テ決シテ關係ヲ有セサ
ルテハ必竟此ノ向題ハ偏ニ各邦法ニ依テ判断スヘキトス
後見事件ニ付テ法廷ノ公開ヲ為サ、ルニ付テハ裁判所編制法五九
七十二条ヲ参考スヘシ

第二編制定ノ沿革及ヒ理由ノ説明 此ノ二標題ハ本章中五九三九
十三条以下ニハ掲載スルテナレ○国務院委員ハ原案ヲ廢棄シテ本
法案ノ系統ニ修正スルニ決定シ其修正ハ之レヲ下調委員ニ任カ
セテ、勉ムニ下調委員ノ會議ニ付テハ筆記ヲ存セテ終ニ下調委員
ノ議決ヲ委員ニ報告シタリ

本文五九三九三九条ニ付テ本事件ヲ地方裁判所ノ管轄ニ後歸セシ
メント試ミタリモ先ニ成立タサリシ又本文五九三九三九条ニ付テ
ハ更ニ異論ナカリシ

第三編精神病 此ノ決ニ付テハ法部西民法五九四八八十九九条ニ於テ

ル治ノ安否ニ如カサレテ、^即重障狂ノ作ニシテ作リテ止マセ
亦必ス精神病ニ属スルナリ、^{定九}然レモ常發病ニハアラヌ而レテ亦此
五九三九三九条以下ニ於テ、^{定九}所ハ只精神病ノ持續シテ為メ、^三後見
ヲ付スル必要ニ付テハ、^モ確保スルモ在ルナリ、^モ而レテ本文五九

五九三九三九条ノ行文ニ依レハ左ノ場合ニ付テモ、^三後見裁判所ニ其職權ヲ
ルカ如シト雖モ而テモ民法上ノ制裁ヲ受クル^三精神病ノ付テ、^三即
例ニハ契約ノ無効ニ付テマテモ、^三本文五九三九三九条ノ規定ニ依リ
後見裁判所ニ頼リテ渡カレヘシトハ、^三理會スヘカラサレナリ

本文中ニ「^三麻癩又ハ白癩等」ノ例ヲ示シタリ、^三即ち漏生内國通法第

二十七条以下：対し訴訟上審理手続に於ける精神病、此れノ區別ニ重キリ措カサントリ明カニスルカヲメナリ

本文第五百九十三条第一項ヲ以テ車本件ハ行政官署ノ管轄ニ屬セ
又裁判所ノ専屬權限ナルトリ明カニシタリ
又裁判所編制法第十三条
欠也

又本文第五百九十三条：用ハタム^{決定}ノ決ニ付テハ本法第四百十
六条第五及ヒ第六百九十四条注解末段ヲ參照スヘシ

第四條裁判管轄 特定専屬管轄ニ付テハ本法第十二條第六條ヲ參
照スヘシ抑普通裁判管轄ハ住所ニ依テ定マリ
本法第十三條參照而
シテ住所ハ^{裁判}場合ニ依テ^{住所}本法第十四條乃至第十八條ニ依テ定マンナ
リ而シテ本文第五百九十四条第一項ハ獨乙國人各縣郡ノ臣民ヲ包
含ス並ニ獨乙國民ニ屬ヤサシム人ヲ^{概括}括ス
本法第十三條第七條參

第

又第五百九十三条第二項、本法第五百六十八條第二項ニ於ケルト
同趣キナリト雖モ只本條ニテハ尙ホ獨乙國民タル人ニ限ルナリ
本法第十二條第二條第十三條第五條參照而シテ其第一項ニ言渡サレ
得トアルニ依リ
本法第五百六十八條第二項ノ文字ニ因レテ之外國ノ
住所ト相撞著スルコトアルハレト理會スヘキナリ

第五百九十五条 後見申立ノ權利ニ付テリノ條

申立ハ被後見者、配偶者^屬親族又ハ後見人之ヲ為スコトヲ得配偶婦ニ
對シテハ其配偶夫ニ限リ父権、下又ハ後見人ノ下ニ立ツ人ニ對シテハ
其父又ハ後見人ニ限リ申立ヲ為スコトヲ得尙ホ此他ノ者其中立リ
為スコトヲ得ル民法ノ規則ハ之カ為メ變更セラレ、コトナシ

終一テノ場合ニ於テ檢察官ハ亦所属ノ地方裁判所ニ其申立ヲ為スノ
權アリ

第五百九十六条 (申立ノ程式ニ付テノ条)

申立ハ裁判所ニ唇面ヲ以テ之ヲ呈出シ又ハ裁判所唇記ノ調符ニ記載
セシメテ之ヲ為スコトヲ得其申立ニハ理由トナル事實及ヒ立証方法
ヲ示スト可シ要ス

第一解申立 本文及ヒ本法第五百九十三条ニ於テハ申立ニ付テ規
定スル所ニシテ乃本法第六百五十二条第六百二十条第六百二十四条第
六百二十六条ノ適式上ノ訴訟トハ相反対スル所^ナリ蓋最初ノ申立ノ
程式ニ於テ已ニ他ノ申立ト異テ^リ抑本文第五百九十六条ニ付テ
ハ即本法第六百四十九条以下並ニ第八百二十四条ト同シク此ノ申

立ハ本法第六百二十一条ノ制裁ヲ受ケス及テ訴訟上ノ程式ニ拘束セ
ラル、^テナ^クト^スル^ノ理^由ニ^テハ^一定^ノ人^ノ後^見ニ^付キ^清願^スル^ノ

趣旨ヲ載セサシム可クサシモノト理會ス可シ而シテ申立人ノ身分
及ヒ被後見者ノ精神病ニ付テノ事實並ニ証拠ノ記載ハ單純ニ示
スルヲ要スト^ルノミアリテ必スシモ之レヲ脱漏スルモノナラザルニ
非ラス而シテ區裁判所ハ此ノ申立アレハ免^ニ自^必ス職權ヲ以テ審
理セサシム可ラサシム^ルト^スル^ノ理^由ニ^テハ^一定^ノ人^ノ後^見ニ^付キ^清願^スル^ノ
レノ代理セシムル^ノ必要ニ非ラス^ルト^スル^ノ理^由ニ^テハ^一定^ノ人^ノ後^見ニ^付キ^清願^スル^ノ
ク禁ズルニハ非ラサシム^ルト^スル^ノ理^由ニ^テハ^一定^ノ人^ノ後^見ニ^付キ^清願^スル^ノ

(第二解申立ノ權利) 本文第五百九十五条第一項ノ行文ハ稍奇怪ノ
文章ナレ^ル比^例ハ^左ノ^事件^ヲ掲^ケタ^ルニ^テハ^一定^ノ人^ノ後^見ニ^付キ^清願^スル^ノ
此第五百九十五条第一項ノ^理由^ニテ^ハ一^定ノ^人ノ^後見^ニ付^キ清^願ス^ル以上ハ仍ホ其能力ヲ有シ

一例之ハ字偏生内国通法第一篇第百三章第百六而二十六条ノ妻(第百三)各
親屬及見人及ヒ配偶者ハ申立ヲ為ス得ルノ通規スル(第百三)配偶夫
権ノ下ニ立ツ配偶婦ニ對シ又父権者ハ後見人ノ下ニ立ツ人ニ對
シテ^{後見}申立ノ得ルハ各^女有權者自ラ之レヲ為シ得但各聯邦法制
於ノ之レニ異ナル法制アルハ格別ニ之ヲ亦法ニテハ右ノ有權者ニ
限リ申立ヲ得ルナリ

未下年者ニシテ後見人及ヒ配偶夫或ハ父権ノ下ニ立ツキハ其後見
人配偶夫又ハ父ハ同等ニ權利ヲ有ス而シテ母ニシテ父権ヲ攝行ス
ル者ヲ一例之ハ配偶夫タル父ノ死亡又ハ不在ノ場合尙ホ法制西民法
第百三而七十二条乃至第百三而七十四条並ニ第百四十一(全)条(本)文第
百九十九(全)条第百一(項)ニ取除キタルハ不考ト云フ一レ然レ共ノ如キ
場合ニハ各聯邦ノ規定法ニ於テ補足スルヲ得一レ(法制西民法)第百四

百九十九(全)条(本)文

一第百三(解)檢査官(本)文第百五而九十九(全)条第百二(項)ニ依リ檢査官ハ亦或
ル局限レリハ場合ニ於テ必ズ其ノ申立ヲ為スル權アリ(上)ノ第百三(解)
第百三(全)条而シテ高等後見廳ニ申立權ヲ有セリルハ動行アリレバ遂
ニ採用ナラズレ止^ニミテ蓋該官廳ヨリ申立^ルハ必ズ該地
方裁判所ノ檢査官又ハ其檢査官ノ上長官ニ為サ、ル可ラサハモノ
トス(裁判所)編制法第百四十三(全)条第百四十七(全)条第百四十八(全)条
第百

第百五而九十七(全)条 (裁判所)編制ノ全

裁判所ハ申立ニ示シタル事實及ヒ立証方法ヲ使用シ職權ヲ以テ精
神狀況ヲ確定スルニ必要ナル事知リ成シ及ヒ適切ト認ムル立証方

法ヲ採用ス可キモノトス

裁判所ハ審理手続ニ着手スル前^レ医士ノ診断書ヲ呈出シ命ズルコトヲ得

検察官ハ信一^ノ場合、於^テ申立ヲ為セ^ルニ因^テ審理中行為ヲ担書スルコトヲ得

証人及ビ鑑定人ノ審問及ビ宣誓、付^クル第二章第七節及ビ第八節ノ規則ヲ適用スル第三章五十五條ノ場合、於^テ拘留ノ命令ハ職權ヲ以^テ之^ヲ為スコトヲ得

第五十九^ノ八條 (被^レ後見者^ハ本人^ノ審問ノ^ニ至^ル)

被^レ後見者ハ鑑定人一名又ハ數名ノ立會ニ於^テ本人自^ラ審問セラル可キモノトス

此審問ハ受^テ託裁判官ヲ以^テモ亦之^ヲ為スコトヲ得

審問ハ裁判所ノ見込ニ依^リ行^ヒ雖^モ時又ハ裁判ノ為メ緊要ナラザル時又ハ被^レ後見者ノ健康ノ為メニ有害ナル時ハ之^ヲ為サ^ルルコトヲ得

第五十九^ノ九條 (必要ノ^ニ付^クル^ニ至^ル)

後見ハ裁判所カ被^レ後見者ノ精神狀況ニ付^キ鑑定人一名又ハ數名ヲ審問シ^テ後^ニア^リサ^レル^ル之^ノヲ^テ渡スコトヲ許サス

(第一解^ニ就^キ推上^ノ審理) 厚^ク第五^ノ四十一條ニハ後見訴訟ヲ直^ニ却^ス

下^ニ得^ルハ規則ヲ定^メア^リシ本法第五^ノ九十三條第五^ノ九十四條第一^ノ解^ニ就^キ然^ルニ本法ニ於^テ此ノ權利ヲ侵害裁判所ハ付^ク典^スル^ルト^シテ

明^ニ定^セル^ル本法第五^ノ九十五條第五^ノ九十六條第一^ノ解^ニ就^キ然^ルレ^テ後見申立^ヲ却^スル^ル為^メ如何ノ程度ニ於^テル^ル説明ヲ要スル^ルヤニ付^テ

ハ全ク既裁判所任意ノ見込ニ在リ乃復見ノ言渡ニ付テハ本文
 第五百九十九条ニ於テ確然制限セラレタル事ト是ニ於テ平儀裁判
 所ハ明カニ理由ナキ申立ヲ却下シ得果レテ然ラサレハ^即思
 アシ申立人^テ木^ノ登^ル森^ヲ逞^ラス^ルノ餘地ヲ共^ニフルニ至ラン
 蓋此ノ事件ノ審理ハ推尚主事ヲ以テ之レヲ施行シ其申立人ノ申立
 ニ拘束セラル、トアルハカラス[〔]検査官カ申立人トシテモ尚不知[〕]
 而レノ申立人ハ為レシ申立ヲ取^リ下^ルルノ權ヲ有セサルナリ
 又本文第五百九十七条第四項ニ依リテ關係人ノ復尚權[〔]本法第三
 百六十二条第三項六百七十二条各條ヲ施行スル[〕]トテ許サス乃警察上ノ審
 理ニ於テハ固トコリ[〔]復被告ナシモ[〕]ハ之レアラズ且右ノ第四項ニ
 ハ只審理及ヒ宣發ニ付テ[〔]第二節ノ第七節第八節ヲ援用スル[〕]
 リ墜レテ申立人又ハ検査官・在廷ノ[〔]審理ヲ為ス[〕]ナレ裁判所編
 制法第七十二條第二項各條然レ[〔]申立人又ハ検査官カ審内調査
 ノ肉覽ヲ清^クフ^ルハ之レヲ拒絶スル[〕]ト得^ル本法第七十一条各條
 若レ之レヲシモ許サストセ[〔]ハ即抗告及ヒ訴訟ヲ適法ニ提出スル[〕]
^モ得^ルナル^ト為レ^ル難^ク本法第六百四十二条第六百五十二条各條[〔]且本法第六百十
 二条ノ規則ニ抵触スル[〕]ノ虞アル^トハ[〔]キ[〕]ナリ
 〔[〔]第二節被復見者ノ審内[〕]〕 本文第五百九十八条ニ付テハ[〔]訟廷ノ公判
 ヲ為サ[〕]ル^トハ[〔]決[〕]シ^テ知^ルル^トハ[〔]裁判所[〕]編[〔]制[〕]法[〔]第七十二條[〕]第[〔]二[〕]項[〔]ニ[〔]於[〕]テ[〔]此[〕]ノ[〔]事件[〕]ノ[〔]審理[〕]ニ[〔]ハ[〕]常[〔]ニ[〕]公[〔]行[〕]セ[〔]サ[〕]ル^トニ[〔]明[〕]定[〔]セ[〕]リ
 又本法第五百七十二条第二項ニ等シキ[〔]各文[〕]ナ[〔]リ[〕]以^テ被復見者ハ
 附添人ヲ同伴スル^ト得^ル〔[〔]本法第八十六条各條[〕]又裁判所ハ其出廷
 セザル^ト之^レヲ懲罰スル^ト許サレサル^トハ[〔]是[〕]レ[〔]本法第五百七十九
 条第三項ニ及^ルル^トナ^リ〕

〔第三解鑑定人及び証人〕 本文第五百九十九条ノ規則ハ被後見者ノ利益アル特別ニシテ而シテ又裁判所ハ鑑定人ノ供述ニ拘束セラレハトキナリ〔本法第三百六十七条第一解及第二解〕鑑定人ヲ指命スルハ區裁判官ナリ而シテ關係人ヨリ鑑定人ヲ忌避シ又ハ証言及ヒ鑑定ノ拒絶ニ関シテハ本法第三百四十一条以下第三百七十一条以下ノ通則ニ依テ判決スヘトナリ〔治罪法第四十九条以下第七十四条及第七十五条第九十七條第四項〕

第六百一条 監護上ノ手続ニ付テノ条

裁判所ハ被後見者ノ一身又ハ財産ニ付テノ監護ヲ命スルコトヲ必要ナリトスル時並ニ其命令ヲ發スル為メ被後見廳ニ通知ヲ為スコキモノトス

第六百一条 費用ニ付テノ条

審理手續ノ費用ハ被後見ヲ命レタム時、又被後見者ニ於テ之ヲ負担シ、其他ノ場合ニ在リテハ国库ニ於テ之ヲ負担ス可シ
裁判所ノ見込ニ依リテ第五百九十五条第一項ニ記載シタム申立人ノ一名申立ヲ為スノ際過失アル時ニ限リ之ニ費用ノ全部又ハ一部ヲ負担セシムルコトヲ得

第六百二条 決定ノ迅速ニ付テノ条

後見ノ言渡ル一キ決定者ハ職権ヲ以テ申立人及ヒ後見官ニ之ヲ迅速ス可シ

第六百三條 (全上)

後見ヲ言渡ス決裁ハ職權ヲ以テ後見廳ニ之ヲ通知シ及ヒ法律上後見人アル時ハ之ニモ亦通知ス可シ

後見ハ其決裁ヲ後見廳ニ通知スルト同時ニ其効力ヲ生ス

〔第一解監護手續〕 本文第六百條ハ本法第六百十四條ト相連合シテ以テ區裁判所カ監護手續ヲ処理セサレトニ付キ定メタルナリ然レ本法第六百十三條第一項及ヒ本法實施法第十六條第四條蓋此ノ手續ニ付テハ高等後見廳カ裁判所ニ關係セヌ又ハ裁判所コトノ豫告ソモ後タマレシテ自ラ処分スルモノトス

〔第二解費用〕 元來本文第六百一條ノ規則タルヤ此後見事件ハ公然ノ秩序安寧ニ關スル國家ノ業務ト為ス所及ヒ申立推アシ者カ手續費用ノ冗贅ヲ悞レテ遂ニ申立ヲ為サルトノナカラシメレト企望スル所ニ因テ制定セラレタリ

〔第三解職權上ノ送達〕 本文第六百二條ハ本法第二百九十四條第三項ニ適合スル規則ニシテ而シテ申立ノ却下並ニ申立ヲ抹消スルノ^{裁判}決裁ヲ且送達スルノ意安ナリ之レニ及シ第六百三條ニ於テハ單ニ申立ヲ聽納ノ送達ノミニ限テ定メ且其後見決裁ヲ高ホ法律上後見人並ニ後見廳ニモ送達スヘキヲ命スルナリ而シテ本條ニテハ本法

第六百二十三條^{第一項}異ナリテ被後見者ニ送達スヘキヲ定メ蓋是レ本法第五百九十八條第三項ニ於ケル理由ト同一ノ理由ニ依ルヤ判然ナリ是ニ於テ本法第六百五條^{第三項}ニ於テ被後見者ニ對シ特ニ規定ヲ設定シアルナリ

裁判所カ公告ヲ為スルハ此ノ場合ニ於テハ許サレルナリ本法第六百二十七條ノ理由ニ反對スル所^{然レ}公告ヲ為サルニ因テ後見官

廳カ決却法上ノ職權又ハ職務ノ責任ヲ免カルヲ能ハス
第四解後見ノ効力 蓋原標ニテハ後見ノ効力ハ仮執行ノ言渡ヲ付
シテ判決ヲ言渡シテ初テ生ズル趣意ニ起標シテ加之下調委員
ハ復テ聯邦ニシテ法律上後見ニ関スル完全ノ規定ヲ設ケル所ニ
以テハ後見人選定ノ以テ効力ヲ生ズルノ時期下定メント豫定シ
リ然レ氏亦委員ハ反テ現今ノ本標ニ豫定シテ乃効ラサレハ事件
ハ永ク浮動シテ未確定タムヘシトノ理由ヲ採レルナリ
後見ノ効力ハ何ノ以テ成立ツヘキヤハ民法ノ規定ニ依ル可シ

第六百四条 後見申立ノ却下ニ付スル上訴ニ付テノ条
後見申立ヲ拒絶スル決裁ニ付シテハ其申立人及ヒ檢察官ハ即時抗告
ヲ為ス得

抗告裁判所ノ審理手續ニ付テハ第五百九十七條ノ規則ヲ適用ス

第六百五条 後見言渡ニ付テハ不服申立ノ条
後見ノ言渡ニ決裁ニ付シテハ一月ノ期限内ニ訴訟ヲ以テ不服ヲ申立
ルコトヲ得

訴訟提起ノ權利ハ被後見者及ヒ後見人及ヒ第五百九十五條ニ記載シテ
ル人之ヲ有ス

期限ハ被後見者ニ在テハ後見言渡ヲ知ラシムル日ト同時ニ起
他ノ人ニ在テハ後見人任定シタルト同時ニ起始ニ法律上後見ノ之
ル場合ニ於テハ其後見人ニ決裁ヲ通知シタルト同時ニ起始ス

第六百六条 裁判管轄ニ付テノ条

訴訟ハ更ニ裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ特別管轄トシテ
專屬ス

第一解後見ノ拒絶 国設院委員会ニ於テ法朗西民法第百九十七
条ニ同シキ規則ヲ採用セント、動議アリシニ賛成ヲ得スニテ自ラ
重印シテ、但内閣代理員ノ説明ニ依レン各邦法ニハ干渉セザルノ
趣意ヲ述ベテ、本法実施法第百十條參照

此ノ即時抗告(本法第百五十四條參照)ハ執行中止ノ能力ヲ有セス本
法第百五十三條第一項參照

後見申立人及ヒ検査官ノ外ノ人ハ抗告ヲ為スノ權ナシ(本文第百六
五條)於ケル訴訟ニ付テハ之レニ異ナシ(然レモ再回^{更正後見ノ申}提出
清ク為スハ妨ケラレズ、

最初ノ未ダ攻撃セラレザル拒絶、^{破産}有^{破産}並ニ抗告裁判所ノ拒絶認可
ノ有^{破産}渡ハ、検査官及ヒ申立人ニ對シ確定力ヲ有セズ(本法第百四十
五條第一項參照)而シテ^只新^只ナル事實ヲ理由トシ^{ズルニ限リ}更ニ後見申立ヲ提出
スルヲ得(本法第百五十七條參照)

本文第百六十四條第一項ニ於テ抗告裁判所ニ付テ(本文第百五十三條
第百五十三條三十一條參照)獨リ本法第百五十九條ヲ適用シテ本
法第百六十一條ヲ適用シテ^{此ノ故ニ}抗告ノ費用ニ付テハ本法第
九十二條ノ一般ノ規則准拠ス^{トナリ}

第二解不服訴訟 本文第百六十五條ニ付テハ永ク討論アリテ遂ニ下
潤委員提出ノ原案ニ異ナシ 訴訟期限ノ開始期日ヲ採用スルニハ
定シテ下潤委員ノ原案ハ日^日期限ハ後見ノ時期ト同時ニ始マル
不服訴訟ノ價值ノ以テ解除訴訟(本法第百六十六條第百六十二條參
照)ニ異ナシ所ハ即不服訴訟ハ破産訴訟ニシテ^{元上}後見ヲ受クヘカラス

ト云フヲ以テ訴訟条件ト爲シ及テ解除訴訟^{（前同條第一項）}後日ニ到来シタル後
見不必要ト申時^{（時）}變態ノ理由ヲ訴訟物件ト爲スノ差別ニ在リ

有効ニ爲シタル不服訴訟ノ効力ハ殊ニ善意ノ債主ニ對シ^{（註）}其ノ渡後
初メノ発スト云ヒ又ハ既往ニ遡リテマシ及エト云フノ向題ニ付

ト到底民法上ノ向題ト定メシレシモ遂ニ又本法第六百十三條ヲ違
加シテ之レカ規定ヲ設ケラレリ

此ノ訴訟ハ執行中止ノ効力ハ之レヲ有セスト雖モ^{（註）}本法第六百三條
第二項^{（本條）}爲スニキノ監護上ノ処分ハ直ニ施行セラルナリ^{（本}

法第六百十三條第一項^{（本條）}
第三條^{（本條）}期限及ヒ審理手續 一月^{（本條）}第二條^{（本條）}第四條^{（本條）}第七十七條^{（本條）}

五十四條^{（本條）}第五十四條^{（本條）}第六百二十四條^{（本條）}第八百三十五條^{（本條）}第八
百七十七條^{（本條）}第九十八條^{（本條）}第九十八條^{（本條）}第一條^{（本條）}

解^{（註）}然レ不^{（註）}變^{（註）}期限^{（註）}本法第二條^{（本條）}第三條^{（本條）}並ニ其第五條^{（本條）}解^{（註）}然レハ之レ

アラス^{（註）}是ノ故ニ此ノ期限ヲ徒過セシメタルハ^{（註）}原^{（註）}期^{（註）}回^{（註）}復^{（註）}ヲ提出スル
ヲ許サズ^{（本條）}本法第二條^{（本條）}第十條^{（本條）}以下^{（本條）}各條^{（本條）}然レ裁判所^{（註）}休^{（註）}暇^{（註）}時^{（註）}間^{（註）}ノ爲メ^{（註）}如^{（註）}限

中^{（註）}断^{（註）}ヲ^{（註）}爲^{（註）}シ^{（本條）}本法第二條^{（本條）}第一條^{（本條）}各條^{（本條）}及ヒ^{（本條）}原^{（註）}被^{（註）}告^{（註）}兩^{（註）}造^{（註）}ノ^{（註）}認^{（註）}後^{（註）}上^{（註）}此
ノ^{（註）}期^{（註）}限^{（註）}ノ^{（註）}伸^{（註）}暢^{（註）}スル^{（註）}ヲ^{（註）}爲^{（註）}シ^{（本條）}得^{（註）}ル^{（註）}ナリ^{（本條）}本法第二條^{（本條）}第二條^{（本條）}第一條^{（本條）}第二條^{（本條）}

二十八條^{（本條）}第一條^{（本條）}各條^{（本條）}此ノ^{（註）}訴^{（註）}訟^{（註）}ノ^{（註）}場^{（註）}合^{（註）}ニ^{（註）}テ^{（註）}ハ^{（註）}即^{（註）}本^{（註）}法^{（註）}第^{（註）}六^{（註）}百^{（註）}七^{（註）}十^{（註）}條^{（本條）}第^{（註）}一^{（註）}項^{（本條）}第^{（註）}二^{（註）}項^{（本條）}ニ^{（註）}從^{（註）}ヒ^{（本條）}原^{（註）}告^{（註）}被^{（註）}告^{（註）}ノ^{（註）}関^{（註）}係^{（註）}ヲ^{（註）}成^{（註）}ス^{（註）}ニ^{（註）}至^{（註）}ル^{（註）}ナリ^{（本條）}○^{（本條）}訴^{（註）}訟^{（註）}ノ^{（註）}趣^{（註）}旨^{（註）}ニ

付^{（註）}テ^{（註）}ハ^{（註）}職^{（註）}權^{（註）}ヲ^{（註）}以^{（註）}テ^{（註）}之^{（註）}レ^{（註）}ヲ^{（註）}審^{（註）}査^{（註）}ス^{（註）}ル^{（註）}ニ^{（註）}モ^{（註）}リ^{（註）}ト^{（註）}ス^{（本條）}本法第五百五十二條
乃至^{（本條）}第五百五十四條^{（本條）}第二條^{（本條）}各條^{（本條）}

本法第六百六條^{（本條）}第六百十條^{（本條）}第六百十一條^{（本條）}第六百十二條^{（本條）}第六百十四
條^{（本條）}除^{（註）}ク^{（註）}外^{（註）}ノ^{（註）}場^{（註）}合^{（註）}ニ^{（註）}テ^{（註）}ハ^{（註）}地^{（註）}方^{（註）}裁^{（註）}判^{（註）}所^{（註）}審^{（註）}理^{（註）}手^{（註）}続^{（註）}ノ^{（註）}通^{（註）}則^{（註）}ニ^{（註）}依^{（註）}ル^{（註）}可^{（註）}シ^{（本條）}又^{（本條）}訟

廷^{（註）}ノ^{（註）}不^{（註）}公^{（註）}行^{（註）}ニ^{（註）}付^{（註）}テ^{（註）}ハ^{（註）}裁^{（註）}判^{（註）}所^{（註）}編^{（註）}制^{（註）}法^{（註）}第^{（註）}百^{（註）}七^{（註）}十^{（註）}二^{（註）}條^{（本條）}第^{（註）}一^{（註）}項^{（本條）}ヲ^{（註）}各^{（註）}言^{（註）}セ^{（註）}ヨ

不服訴訟ハ被後見者本人死亡後ト雖モ本法第五百九十五条ニ記載
レタル人ナシ限リハ之レヲ提起スルコトヲ許ス本法第六百十六条乃
至第六百十九条第四解気危知リ而シテ検査官ニ至リハ被後見者死
亡スレハ尔来其後見人ノ存在セザルヲ以テ相手人ヲ失フタルモノ
トスルナリ〔本法第六百七条第二項参看〕

〔第四解裁判管轄〕 本文第六百六条ニ付テハ本法第五百九十四条及
ヒ其註解ヲ参看シテ理會スヘシ

第六百七条 〔被告ニ関スルノ条〕

訴訟ハ検査官ニ対シ之ヲ提出ス可シ
検査官訴訟ヲ提起スル時ハ被後見者ノ代理タル後見人ニ対シ之ヲ為
ス可シ

第五百九十五条第一ニ記載レタル人一名後見ノ中立ヲ為シタル時
ハ訴訟ノ通知ヲ為シ口頭審理ノ期日ニ之ヲ呼出ス可シ第五十九条ノ
意ニ於ケル原告本人ノ共同訴訟人トシテ参加シタル者アル場合
ニ於テモ亦同シ

第六百八条 〔訴訟ノ連合及ヒ反訴ニ付テノ条〕

後見官渡ルコトニ不服訴訟ト其他ノ訴訟トハ之ヲ連合スルコト
ヲ得ス
反訴ハ之ヲ為スコトヲ許サス

第六百九条 〔被後見者ノ後見ノ代理代理ニ付テノ条〕

被後見者訴訟ヲ提起セルト欲スル時ハ其申立ニ依リ受訴裁判所ノ裁

判長ハ代言人ヲ代人トシテ之ニ付添ハシム可シ

〔第一解検査官〕 政府第二回草案第五百七十四条ニ於テハ亦猶ホ本
法第五百八十六条ノ婚姻取消訴訟ニ於ケル如ク検査官ヲ公選利安
ノ代表者トシテ原告トシテ任地ヲ授ケテ之ヲ而シテ本文第六百七
条ニ於テハ更ニ擴充シテ全ク被後見者及ヒ其後見人ノ代理タルヲ
得セシメタリ但第三者カ訴訟ヲ起シタル時検査官トシテ其訴訟ニ
其後見人ハ全ク其訴訟ニ卷共セザルナリ〇検査官ハ代言人ヲ使用
スルヲ要セス〔本法第五百八十五条第五百八十六条第一解条意〕

〔第二解止テ得サル共同訴訟〕〔本法第五十九条条意〕 本文第六百七条
第三項ニ於テ共同訴訟人ニ付テ規定セリ〔本法第五十九条第三解条
意〕而シテ此ノ共同訴訟人ノ呼出ハ本法第九十一条以下ニ依リテ
原告ニ於テ施行スヘキナリ検査官ヲ呼出スニ付テモ亦〔前項主殿ノ

場合〕除ク同レ蓋シ此ノ場合ニ於テハ検査官ハ原告ノ原告本人ノ
訴訟行為上ノ権利義務共ニ担当スレハナリ〇此ノ呼出ヲ為サハル
ハハ訴訟棄毀ノ抗弁ヲ提出セラレハレ〔本法第五十九条第四解条意〕

〔第三解訴訟ノ連合及ヒ反訴〕 本文ニ於テハ猶ホ本法第五百八十七
条ニ於ケルカ加リ訴訟ノ連合及ヒ反訴ヲ許サス政府第二回草案ニ
テモ亦同カリシ

〔第四解被後見本人〕 本文第六百九条ニ依リテ即被後見者モ起訴權
ヲ有スルニテ是レ本草案第五十條ニ於テモ特別法タル一キナリ而シテ起
訴スルニ方テハ己レノ後見人ノ承諾ヲ得ルヲ要セム自ラ其代理人
ヲ選定シ得ルニ若シ被後見者自ラ代理人ヲ選定セムレバ裁判所ニ
申請シテ之ハ則必ス裁判長ハ一ノ代理人ヲ任命セザル可ラサ
ルナリ此ノ申立ノ程式ニ付テハ別ニ規定セラレズ一長ノ審判ヲ以

テスルモ尚ホ足レルノミ

第六百十條 〔原告ノ陳述ニ付テノ條〕

原告被告兩造ハ口頭審理ノ際區裁判所ニ於テ為レタシ事件上審理ノ結果ニ付テ充分ニ供述ス可キモノトス但不服ナリトスル決後ノ審査ヲ審査スルニ必要ナル時ニ限ル

裁判長ハ其供述ノ不正又ハ不完全ナル場合ニ於テハ其更正又ハ補充ヲ為サシメ必要ナル場合ニ於テハ審理ヲ再開シ其更正之ヲ為サシム可キモノトス

第六百十一條 〔缺席其他宣誓ニ関スルノ條〕

第五百七十七條第五百七十八條ノ規則ハ亦之ヲ適用ス

原告被告宣誓ハ之ヲ許サズ

第六百十二條 〔被後見者ノ審理及ヒ鑑定人ニ付テノ條〕

第五百九十八條第五百九十九條ノ規則ハ不服訴訟ニ付テノ審理手續ニモ亦之ヲ適用ス

裁判所ハ區裁判所ニ於テ為レタル鑑定ヲ充分ナリト看認スル時鑑定人ノ審問ヲ為サシムコトヲ得

〔第一解原告供述〕 本文第六百十條ハ本法第四百八十八條ニ模倣

シタル所ニシテ而シテ其意ヲ付テハ本法第四百八十七條第四百八十八條第三解ヲ参照スヘシ抑不服理由ハ必ス適法ノ性質ヲ有シ例之ハ後見申請權ノ缺乏ノ妻ナラサルハ本法第五百九十九條第五條又原告人ハ自己ノ身分証明〔本法第六百五條第二項参照〕及ヒ

適法ノ時期ニ起訴シタルコト本法第六百九十五条第一項参照ニ陳述陳述
ヲ為ササルヘカラス本法第五百五十二条参照

〔第二解裁判官ノ忌避〕 抗告裁判所トシテ職務ヲ施行シタル裁判官

〔本法第六百四条参照〕ヲ不服訴訟ニ付テノ判決文渡ニ参典スルコトヲ

禁セシトノ動議アリシモ返シ是レ無用ノ事項ナリトシテ排斥セラレ

タリ蓋本法第四十一条第六ハ到底前項ノ場合ニ適当セ又然レハ独

リ本法第四十二条第二項ニ依テノ忌避ヲ為シ得ルナリ〔本法第四

十一条第九解参照〕

〔第三解原告ノ随意ヲ抑裁スル〕 本文第六百十一条ニ於テ本法

第五百七十七条第五百七十八条ヲ適用シタルハ即原告ノ任意行

為ヲ抑裁スルニ在リ然レモ各第二項ニ依レハ宣誓要求及ヒ裁判

官ノ命ニん宣誓ヲ全ク除去シタルハ本法第四百三十七条乃至第四百

三十九条第九解参照但獨リ本法第五百七十七条第二項ハ相手人ニ

証言ノ呈出ヲホリ申立ニ関スル限リハ仍モ此ノ各ニ適用セラル

ハモトト理合ス可シ而シテ本法第五百七十七条第二項ニ称スル事

實ニ概テ本事件ニテハ後見ノ理由トスル事實ヲ以テス可キナリ

〔第四解被後見者ノ審理〕 国設院ノ判決ニ依レハ即被後見者ヲ審問

スルニハ之ヲ裁判所ニ呼出スルコトナク世所在ニ就テ為スル例規トス

然レモ本法第五百九十八条第二項ニ依テ到底裁判官ノ見込ニ任事

スヘキナリ

〔第五解公行ヲ止ム〕 付テハ裁判所編制法第七十二条第一項ヲ参

照スヘシ

〔第六解注意スヘキ〕 即本法第五百九十七条ヲ適用スルコトヲ明定

セサレ在リ乃審理主事ハ其陳述セサレ不服理由ヲ裁判官ニ於

テ

ヲ斟酌セザン趣意ナリト理合ス可シ

第六百十三条 (廢棄判決ノ効力ニ付テノ条)

不服訴訟ヲ理由アリト看認スル時ハ後見ヲ言渡シタル決定ヲ廢棄ス可シ其廢棄ノ効力ハ判決ノ確定ヲ以テ始起ス但申立ニ依リ被後見者ノ身上又ハ財産ヲ保護スル為メ第六百十五條乃至第六百二十二條ニ依拠シテ後処分ヲ為スコトヲ得

此廢棄ハ後見ヲ言渡シタル決定ヲ以テ被後見者ノ是レマテノ行為ノ効力ヲ變動スルコトヲ得可クサレバ其効力ヲ有スルモノトス又其廢棄ハ任意セラレタル後見人又ハ法律上後見人ノ是レマテ為レタル行為ノ効力ニ影響ヲ及ホサザルモノトス

第六百十四条 (費用ノ付テノ条)

検査官敗訴シタル時ハ勝訴者タル相手人ニ生シタル費用ハ第一條第一條第二條第五條ノ規則ニ從ヒ国库ニ於テ弁償スルコトヲ言渡サレ可キモノトス

検査官訴訟ヲ提起シタル時国库ハ總一テノ場合ニ於テ訴訟ノ費用ヲ負担ス可シ

第六百十五条 (判決通知ニ付テノ条)

受訴裁判所ハ事件ニ付キ言渡シタル各終局判決ヲ後見廳及ヒ區裁判所ニ通知ス可シ

(第一條廢棄判決) 本法第六百五條ノ注解ニ述ヘタル判決効力ノ位ニ據テ解釋スル為メ本文第六百十三條ヲ追加シタルヲ抑此第六百

十三条ハ単ニ訴訟手續上ニ規定シテ規定シタル所ニシテ而シテ根元
法上ノ効力如何ニハ固トコリ独リ各聯邦法ニ從フヘキノモ亦法第
五而九十三条第五而九十四条第一解表也

又此第六而十三条第一項ニ依ルハ廢棄判決ニ付シテ仮執行ノ言渡
ヲ為スヲ許サハルナリ其判決確定シテ第六而四十五條乃至初メテ
廢棄ノ能カク發生ス然リ而シテ上訴審理ノ延日スルニ因テ發成ス
ル失害ヲ減殺スル為メニ本法第八而十四條ニ反シテ或ル事項ニ付
キ仮処分ヲ為スヲ許ス乃被後見者身上保護ノ為メ凡癲院ヨリ出院
セシムルノ責是レナリ

又此第六而十三条第二項ニ於テモ亦確定判決ニ因ルヲ必要トシ且
既ニ前項ニ依リタル如ク只ニ後見決定ノ成績ニ付テノモ規定シ並ニ
被後見者ト其後見人トノ行為ニ付テ各別ニ其責任ヲ負ハルノニ乃被後

見者ノ為レタル行為ハ後見決定ノ言渡之レナカリキト看做サレタ
ル既往ニ遡リテ廢棄ノ能カク有ス又後見人ノ為レタル行為ハ廢棄

判決ノ確定スルマデハ其効能ヲ保有ス被後見者カ後見中ニ為ル行為ハ変更セシメテ只後見決定ハ最初コトニ依リテモト看做ス又ニ即廢棄判決ハ既
往ノ後見決定ニ及ハスノ事

被後見者ト後見人トノ相撞着レノ互別ナル行為例之ハ後見人カ被
後見人ノ賣買約ヲ破却シ而シテ其物品ヲ他ノ方法ヲ以テ他ニ讓與
レタルノ事如キニ付テハ固トコリ後見人其行為ニ付テノ責任ヲ
負フナレバ他須ク民法ノ規定ニ從フ可シ

第三解費用 本文第六而十四條第二項ハ本法第五而九十一條ニ反
シテ換掌官訴訟ヲ提起シ勝訴者タルニ至ルト雖モ尚モ其費用ハ固
庫ノ負担ニ歸スルナリ

第三解判決ノ通知 本文第六而十五條ハ本法第六而三條ニ反シテ

訴訟ノ無却スル判決並ニ廢棄判決ヲ包含シ且此ノ規則ハ終ヘテ審
級ニ通則スヘキナリ而シテ^{訴訟}係人ニ判決ヲ行渡シ及ヒ送達スルノ
規則ハ本文第六而十條ノ為メ変更セラル、トナレ^{本法}第二而八
十一條以下第二而八十八條迄但本法第二而八十三條第二項ハ本
法第六而十三條第一項ノ為メ適用セラレ得サルナリ

第六百十六條 (後見解除ノ条)

後見ノ解除ハ被後見者又ハ其後見人又ハ検査官ノ中立ニ依リ區裁判
所ノ決議ヲ以テ之ヲ為スモトス

第六百十七條 (裁判管轄及ヒ審理手続ニ付テノ条)

後見ノ解除ニ付テハ被後見者其普通區裁判管轄ヲ有スル區裁判所特ニ
之ヲ管轄ス

被後見者独乙人ニシテ其住所ノ外国ニ於テノニ有スル時申立ハ独乙
国内最後ニ有セン住所ノ區裁判所ニ之ヲ為スコトヲ得但^其後見ヲ渡
ハ独乙裁判所ニ於テ之ヲ為シタル時ニ限ル

第五而九十六條乃至第五而九十九條ノ規則ハ亦之ヲ適用ス

第六百十八條 (費用ニ付テノ条)

審理手続ノ費用ハ被後見者之ヲ負担シ検査官審理手続ヲ申立テタル
モ其効ナカリシ時ハ国库之ヲ負担ス

